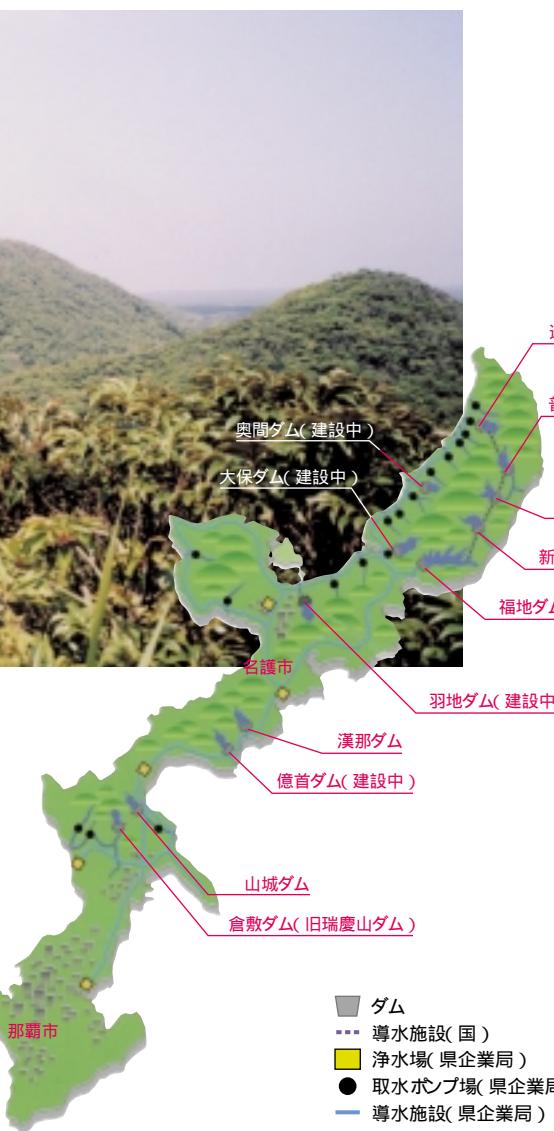


# ダム事業における環境保全対策の取り組み

## はじめに

沖縄本島の水資源開発を担う多目的ダム建設事業は、沖縄の河川規模及び地形条件から北部地域に集中しており、沖縄総合事務局として昭和四十七年の本土復帰以来これまでに福地ダムをはじめとする北部五ダム、漢那ダム、倉敷ダム（旧瑞慶山ダム）で、管理は沖縄県が実施）を完成させました。北部地域は、都市化の進んでいた中南部地域に比較して良好な自然環境が残され、限られた地域であるにもかかわらずノグチケラやヤンバルクイナ等、本土とは異なる数多くの固有種、貴重種が生息しています。

このような環境条件の中で進めるダム事業では、自然環境への影響を少なくし、かつ貴重な動植物等の保全・復元を目指し、数々の対策や試みを実施しております。本稿では、北部ダム事務所で実施中の主な事例について紹介します。



## 1 リュウキュウアユの復元

本土産アユとは遺伝的に異なる琉球列島固有の亜種であるリュウキュウアユは一九八〇年頃を最後に沖縄本島から姿を消しましたが、種のジーン（遺伝子）バンクとして、福地ダム、安波ダム、辺野喜ダムでの陸封化に成功し、生息が確認されています。



復元されたリュウキュウアユ

ダム事業における生態系保全対策の考え方やこれまでの取り組み状況を広く一般の方々に知っています。北部ダム事務所の敷地内に人工ダムを設置し、広報ステーションとして活用しています。ビデオ等上映



ノグチケラの巣立ち（人工営巣木から）



ハウス内植物（エコ・ルーム）



エコ・ルーム内

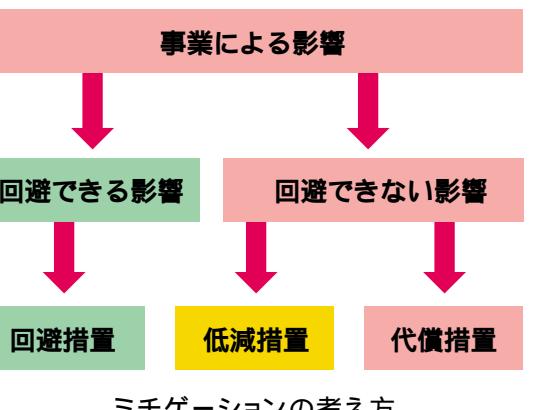


エコ・ルーム外観

「オーナー、パネル展示」「オーナー、学習」「オーナー、観察」「オーナーに分けられており、環境学習の場を提供しています。

2 ノグチケラ人工営巣木  
ノグチケラの保全対策のひとつは、営巣が可能なイタジイ大径木が安定供給できる自然度の高い森林を確保しておくことです。

イタジイの中小径木の林が営巣可能な大径木になるまでの間のつなぎの機能を期待し、ダム工事で伐採せざるを得ない木を活用した人工営巣木の開発研究を進めています。平成十一年に人工営巣木から初めての巣立ちを確認し、今年度は三本の営巣木から五羽の巣立ちを確認しています。



ミチゲーションの考え方  
生態系保全対策の基本としてミチゲーションの考え方を取り入れて実施しています。ミチゲーションとは事業における影響を受ける場所の回避影響を最小限にとどめる低減回避や低減のできないとき別の場所に生息場所を創る代償措置の三つの考え方ともに保全対策を考えることです。

## 取り組み事例

事例としてリュウキュウアユの復元、ノグチケラの人工営巣木、エコ・ルーム等を紹介します。



貴重種の分布状況調査



動物シェルター



小動物保護型側溝



貴重植物の移植状況



貴重植物の増殖

4 その他  
貴重植物の増殖・移植の実験や、小動物保護型側溝、動物シェルター等の設置を実施しています。

## 生態系保全対策

ダム事業は一般に流域の自然環境に与える影響が大きいと考えられており、基本計画策定時には環境影響評価、その後建設完了まではモニタリング調査及び保全対策の実施を行います。

ミチゲーションの考え方としてミチゲーションの考え方を取り入れて実施しています。ミチゲーションとは事業における影響を受ける場所の回避影響を最小限にとどめる低減回避や低減のできないとき別の場所に生息場所を創る代償措置の三つの考え方ともに保全対策を考えることです。

有識者の指導